

震災追悼アSEMBリーでの言葉

令和3年1月19日

26年前の平成7年1月17日、午前5時46分に、6434人もの命を奪った、大震災が阪神・淡路地区を襲いました。その当時の経験や思いを、私たちは決して忘れることはありませんし、忘れてはなりません。

その瞬間、神戸の街並みは一変しました。

神戸高校は、建物自体は大きな被害は出ませんでした。窓ガラスが約70枚壊れた、教室の天井から約30個の照明が落下した、おおとり門が倒壊した、などの記録が残っています。体育館と武道体育館には、800人から900の方が避難してこられました。多くの生徒、職員が被災し、授業再開は2月1日からでした。

そして、最も悲しく辛い出来事は、先ほど総務委員長から話があったように、本校の職員1人、生徒2人の3人（放送ではお名前をお呼びしました。）が亡くなったことです。鐘を3回鳴らしたのは、本校の犠牲者のこの3人をお一人ずつ偲ぶためです。

今年の追悼記念式典でも、当時の本校生徒の手記を紹介します。昨年、一昨年の人とは違い、今年は、当時2年生の女生徒の手記を一部割愛して読みます。

（放送で朗読した手記は省略します。）

私たち神戸高校の生徒と職員は、26年前、私たちの先輩が、大震災で犠牲になったという事実を忘れてはなりません。そして、先輩たちや、当時の人が、経験したこと、感じたことを忘れてはなりません。

震災という辛く悲しく恐ろしい出来事が発生したという事実。近い将来、日本のどこかで発生すると言われる大地震に備える、防災・減災の大切さ。そして、人の命の尊さと、人の心の温かさ。私たちは1月17日を決して忘れてはなりません。

皆さんには、当時の直接の経験はありません。でも、例えば、大震災から生まれた曲「幸せはこべるように」、この曲は今や世界の被災者の心をつなぐ曲となっていますが、皆さんの殆どの方が、この「幸せはこべるように」を歌うことができるように、また、例年なら毎年、本校から東北ボランティアに参加する生徒がいるように、皆さんの中には、あの震災の記憶と思いが、すべてではないけれど、継承されているのです。

1月17日を、震災の経験と記憶と思いを心に刻む日とし、次の世代、別の地域へと継承し続けて行ってください。

以上、追悼の言葉とします。